

アセアン地域における取組について

1 これまでの取組

- (1) 本年 6 月、「グローバル・フードバリューチェーン戦略」をとりまとめ、「日本再興戦略」改訂 2014 に位置付け。その実行のため、6 月 20 日、「グローバル・フードバリューチェーン (GFVC) 推進官民協議会」を立上げ。
- (2) 6 月 26 日、日越農相（共同議長）、在ベトナム日本大使、日本企業(11 社)、JICA、JETRO の代表の出席を得て、日越農業協力対話第 1 回ハイレベル会合（ハノイ）を開催。日越の官民連携によるベトナムにおけるフードバリューチェーン構築のための中長期ビジョンの策定に合意。
- (3) 7 月 30 日、GFVC 推進官民協議会第 1 回アセアン部会を開催。
- (4) 9 月 23 日、日ミャンマー農相（共同議長）、在ミャンマー日本大使、日本企業(14 社)、JICA、JETRO の代表の出席を得て、日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第 1 回ハイレベル会合（ネーピードー）を開催。日本とミャンマーの官民連携によるミャンマーにおけるフードバリューチェーン構築のための具体的方策の検討開始を確認。また、9 月 23 日の ASEAN 農林大臣会合及び翌 24 日の ASEAN+3 農林大臣会合の際に、日本側より ASEAN 地域におけるフードバリューチェーン構築を説明し各国が支持、共同プレスステートメントに明記。
- (5) 11 月 12 日、日・ASEAN 首脳会議において、安倍首相より昨年 12 月の日 ASEAN 特別首脳会議で採択された「日 ASEAN 友好協力に関するビジョン・ステートメント」及び「共同声明」を着実に実施に移し、更に協力を深めていきたい旨発言。
- (6) 11 月 13 日、アセアン+3（日中韓）首脳会議において、安倍総理から、「フード・バリューチェーン構築」のための官民連携協力を強化して行きたい旨言及。

2 当面の対応

- (1) ベトナム
 - ・日越農業協力対話の枠組の中で、アセアン部会と連携し、民間投資と経済協力の連携によるフードバリューチェーンの案件形成、中長期ビジョン（モデル地域設定、計画期間 5 年）の素案作成等を進め、本年 12 月に開催予定の日越農業協力対話コアメンバー会合で議論。
 - ・来年 6 月頃の日越農業協力対話第 2 回ハイレベル会合で中長期ビジョンの承認を目指す。
- (2) ミャンマー
 - ・日ミャンマー農林水産業・食品協力対話の枠組の中で、アセアン部会と連携し、民間投資と経済協力の連携によるフードバリューチェーンの案件形成等を進める。
- (3) インドネシア
 - ・本年 4 月の日インドネシア農業副大臣間の基本合意に基づき、ジョコ・ウィドド新大統領率いる新政権の動向等も見つつ、来年の日インドネシア農業協力対話第 1 回ハイレベル会合（仮称）の開催に向け調整。
- (4) アセアン全体
 - ・今後、GFVC 推進官民協議会のメンバーに対するアンケート調査などを通じて、メンバーの意向を把握し、(1)～(3)以外の国・地域についての対応も検討予定。

日越農業協力対話第1回ハイレベル会合 ①

1 概要

- 本年3月のサン・ベトナム国家主席訪日の際の日越農相間の基本合意に基づき、ハノイにて日越農業協力対話第1回ハイレベル会合を開催(平成26年6月26日)。日本企業(11社)、JICA、JETRO、在ベトナム日本国大使館の代表も出席。
- 今後、日越の官民が連携し、来年6月頃の第2回ハイレベル会合での承認を目指し、ベトナムにおけるフードバリューチェーン構築のための中長期ビジョン(モデル地域設定、計画期間5年)を策定することを確認。

2 出席者

日本側: 林農林水産大臣(共同議長)、深田駐ベトナム日本国大使、JICA、JETRO、日本企業等(※)の代表

※ エースコック、クールジャパン機構、ドリームインキュベータ、アイティ・コミュニケーションズ、井関農機、クボタ、前川製作所、日本農業機械工業会、三井物産、サラダボウル、双日

ベトナム側: ファット農業・農村開発大臣(共同議長)、農業農村開発政策戦略研究所長、商工省等関係省庁副大臣、各地方省人民委員会長等



日越農業協力対話第1回ハイレベル会合 ②

- ベトナム農業（人口の約7割、GDPの約2割）の発展は、農村地域の生活向上と国土の均衡ある発展に不可欠
- 農業の発展には、フードバリューチェーン（生産、加工・製造、流通、消費）の構築が重要
- 南北に長く、農業が多様であるため、地域ごとの課題に応じた対策が必要

- 日越の官民が連携し、フードバリューチェーンの各段階の課題に重点的に取り組むモデル地域を設定し、今後5年間の中長期ビジョンを策定
- 農業分野では、初めての取組。ベトナム側の評価も高く、他の途上国のモデルとなり得る

課題	モデル地域	取組の概要
(生産) 生産性・付加価値の向上	ゲアン省	○ 灌漑整備、参加型水管理、農薬・肥料使用適正化、農民組織強化
(加工・製造) 食品加工・商品開発	ラムドン省	○ 食品加工・観光などを含めた6次産業化の促進
(流通、消費) 流通改善・コールドチェーン	ハノイ市・ホーチミン市	○ 消費者ニーズへの対応、鮮度保持 ○ 民間投資によるコールドチェーン整備

※ 中長期ビジョンの中で新たなモデル地域の設定が可能



日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第1回ハイレベル会合

1 概要

- ネーピードーにて、日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第1回ハイレベル会合を開催(平成26年9月23日)。日本企業(14社)、JICA、JETRO、在ミャンマー日本国大使館の代表も出席。
- 今後、日本とミャンマーの官民が連携し、ミャンマーにおけるフードバリューチェーンの構築のための具体的な方策の検討を開始することを確認。



2 出席者

日本側: 西川農林水産大臣(共同議長)、樋口駐ミャンマー日本国大使、JICA、JETRO、日本の農業・食品関係企業等(※)の代表

※ 井関農機、クボタ、クールジャパン機構、国分、サタケ、損害保険ジャパン日本興亜、日本工営、日本通運、日本農業機械工業会、前川製作所、丸紅、三井住友銀行、三井物産、ヤンマー

ミャンマー側: ミン・フライン農業灌漑大臣(共同議長)、ウィン・ミン商業大臣、商工会連盟、米穀連盟等



日・アセアン間でのフードバリューチェーン構築に関する動き

日・ASEAN特別首脳会議(2013年12月14日 東京)において合意された、日・ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント 実施計画に、『生産から消費に至るフードバリューチェーンに関する官民連携の協力を促進』を明記

越 日越農業協力対話第1回ハイレベル会合 (2014年6月26日)→P1,2参照

ミャンマー 日ミャンマー農林水産業・食品協力対話第1回ハイレベル会合 (2014年9月23日)→P3参照

ASEAN 第36回ASEAN農林大臣会合(第36回AMAF会合)



- 西川大臣のプレゼンに対し各国大臣より支持が表明され、共同宣言に以下が記述。
 - 我々は、日ASEANフードバリューチェーン構築のための官民連携協力に関するイニシアティブを支持
 - 有識者会議の設置と「グローバル・フードバリューチェーン戦略」の活動の実施に留意

ASEAN+3 第14回ASEAN +3 農林大臣会合(第14回AMAF+3会合)

- 共同宣言に以下が記述。
 - 我々は、ASEANのいくつかの国におけるフードバリューチェーン構築のための官民連携協力についての日本の支援に留意。我々はこのイニシアティブを地域レベルに拡大することを奨励。

ASEAN 第17回日ASEAN首脳会議 2014年11月12日(於:ミャンマー ネーピードー)



- 安倍総理から、昨年12月の日ASEAN特別首脳会議で採択された「日ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント」及び「共同声明」を着実に実施に移し、更に協力を深めていきたい旨述べ、同会議の議長声明に「本ステートメント」及び「共同声明」に基づいた協力の推進を歓迎する旨明記。

ASEAN+3 第17回ASEAN +3(日中韓) 首脳会議 2014年11月13日(於:ミャンマー ネーピードー)

- 安倍総理から、「フード・バリュー・チェーン構築」のための官民連携協力の強化に言及。